



季刊誌「皇室」94号（日本文化興隆財団企画・扶桑社刊）から転載

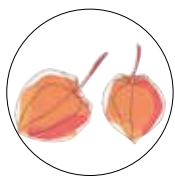
皇后陛下 御歌

皇室に君と歩みし半生を
見守りくれし親しき友ら

歌会始お題「友」

目次

歌会始め	1
栃木県神社庁副庁長挨拶	2
栃木県神社庁教化委員会副委員長挨拶	3
特集記事 「沖縄本土復帰五十年」 戦没者慰霊祭	4
沖縄に眠る全ての御霊へ捧げる 「みたま慰めの舞」	7
沖縄慰霊祭紀行	8
受彰者紹介	11
教えて！神主さん お宮のQ&A	16
令和六年厄年・戌の日早見表	19
式年遷宮について	20
栃木県特産物の紹介	26
編集後記	29



栃木県神社庁副庁長 ごあいさつ



日光二荒山神社
宮司 中麿 輝美

奉仕の心

令和二年以来、猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症も、五月八日に感染症法上五類に移行されてより、各地で祭りが盛大に執行されているとことが、テレビ・新聞等で大きく報じられており、日光二荒山神社におきましても四年ぶりに、霊峰男体山登拝祭が恒例に従って執行することができ、誠に嬉しく有難く、真心籠めてご奉仕申し上げた次第であります。

之も偏に御神徳宣揚の為に尽力戴いております、氏子崇敬者の皆様のおかげと心より感謝いたします。

ところで、最近「ありがたい」・「もったいない」・「おかげさまで」という感謝の言葉が、余り聞かれなくなったとのこと。衣食住に恵まれている今日、ものから受ける恩恵を忘れがちなのが、私たち人間であると言われています。「すぐく当然である」・「当たり前のこと」として処理されてしまい、感謝の言葉が忘れ去ろうとしているとのこと。指摘されており、日本の建国以来、先祖代々受け継がれてきた日本人の心が失われてしまう危機感の顕れからであるとのこと。私たちが人間が生きていることが出来る条件とは、まず食べること、飲むことですが、その前に大地が、太陽が、空気がなければなりません。

せん。この条件を恵んで下さるのは何なんだろう、と祖先たちは考えて出した答えが大自然であり、そのお恵みがあるから生きていけると悟ったのであります。そして「ありがたい」・「もったいない」・「おかげさまで」と大自然の恵みを尊ぶようになり、偉大な恵みをもたらす神々に感謝の祈りを捧げる祭りをご奉仕してまいりました。

奉仕するとの言葉の例えとして、母親が幼子を慈しむ姿は美しい、と誰もが思うことは当然であり、母親は尽くして求めず、無心にわが子に奉仕しています。同じように、神々様も私たち人間に対して「尽くして、求めず」奉仕して下さっています。

私たちは、神々様の御心に対し感謝の真心を捧げる為に、祭りを盛大に行うことは勿論であります、無言の中に教えてくれる奉仕の心を考えなければなりません。

まもなく神宮大麻頒布始祭が執行されますが、神宮には内宮と外宮があり、内宮には天照大御神様が、外宮には豊受大神様が祀られています。天照大御神様は日の神様であり、私たちの生命の本源を与えてくださり、豊受大神様は衣食住の恵みを与えてくださいます。私たちが生きている、生かされている恩恵が神宮に集約されています。

江戸時代の国学者本居宣長は

たなつもの百の本草も天照す 日の大神の恵みえてこそ

朝宵に物くうごとに豊受の 神の恵みを思え世の人

と詠んでいます。

私たちはこの感謝の言葉を胸に刻んで、奉仕の心を以て神宮大麻の頒布に携わっていききたいと思えます。

栃木県神社庁教化委員会副委員長 ぐあいさつ



塩竈神社

宮 司 伊藤 史展

栃木県神社庁教化委員会 香取委員長の下、副委員長を仰せつかりまして、今年度で二年目に入りました。前期の三年間も荒井委員長の下、副委員長としてご奉仕させていただきましたが、新型コロナウイルスの世界的な流行により全世界が機能を失う中、神社界も多大な影響を受けました。その為、役員会や部門ごとの会議は減少し、リモートでの会議を余儀なくされ、主だった活動がままならない三年間でした。

そのようなコロナ禍の数年間で、様々な出来事がございました。私が最も心に残った出来事は、世界規模での新型コロナウイルス感染症の拡大、そして元総理大臣の安倍晋三氏の銃撃事件です。

新型コロナウイルス感染症は、二〇一九年十二月初旬に中国武漢で第一例目の感染者が報告され、僅か数ヶ月で世界へ拡大しました。日本においては、二〇二〇年一月十五日に最初の感染者が確認され、感染力が強いと即国内に拡大し、四月七日には緊急事態宣言が発出されました。人との交流は制限され減少し、経済の衰退、医療の逼迫（ひっ迫）、マスク着用を余儀なくされ、私達の生活に大きな影響を及ぼしました。神社界においても、社務の縮小や参拝者への対応の制限、祭典の中止や簡略化を余儀なくされました。私の奉仕する一部の神社では、行政区の会議が開かれず書面決議の為、神社役員の引継ぎも出来ず、未だ

役員定数に満たない状態が続いております。

昨年七月、元総理大臣安倍晋三氏が選挙応援演説中に銃撃された事件、映像を通してその瞬間を目にした際は、大変な衝撃を受けました。警察の捜査により、日に日に事件の全容が解明されていく中、犯人の生い立ちや価値観、思想などが連日報道されました。常軌を逸脱し、何を信じ、誰に助けを求めればよいのかわからず凶行に至った犯人の背景には、本来人々の心を癒す事が出来る宗教が、我々には理解しえない深い深い闇となってしまうのだと感じました。同時に、コロナ禍という世の中で、益々他人との交流を無くし孤立していく中で、心の拠り所を無くしてしまったのも原因の一つではないかと思ひ、神職としての自分は、そのような時に何が出来るのかと、改めて考えさせられました。

近年の急激な人口の減少、世代交代による神社信仰の希薄化、高齢化による過疎化、氏子数の減少等、地域や慣習を含め様々な要因はありますが、神社運営も年々厳しくなっております。新型コロナウイルスの扱いも今年五月八日から第二類から五類に引き下げられ、コロナ禍以前の世の中に戻りつつあります。しかし、一度中止や簡略化された祭典行事を元に戻すことは、氏子の人達の意識や祭典費その他の諸々の理由はございますが、容易ではありません。

様々な問題が山積する現状ではございますが、神宮大麻の増体、神社祭祀の伝統文化を絶やすことなく後世に伝えられますよう、日々神明奉仕に励み精進して参ります。今期も副委員長を努めさせていただく事、また当会の一委員として、任期二年を切りました。今後とも、委員の皆様と一丸となって栃木県の神社界をより一層発展させるがため、力を尽くして参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「沖繩本土復帰五十年」戦没者慰霊祭趣旨

昨年沖縄県は、本土復帰五十年を迎えました。御高承の通り我国は、国家の存亡を掛けた大東亜戦争において三百万人の同胞を失いました。特に沖縄戦においては、

本土防衛の御盾となつて、軍民あわせて多くの尊い生命が散華されました。今尚、沖縄県を始めとして、南海の孤島に、また北辺の極地に、尊い生命を国家に捧げられた戦没者を思う時、我々日本国民は、永遠に忘れることができない深い悲しみがあります。今日の我國の繁栄と平和は、これらの戦没者の礎の上に築かれたものであり、戦没者に対し、国民が感謝の心を寄せることが、我國の恒久平和に繋がるものであります。

栃木県神社庁では、去る平成十四年に沖縄県の本土復帰三十周年・対日講和条約発効五十周年にあたり、戦塵に散った栃木県出身の多くの英霊に対し、誠の心を捧げるべく戦没者慰霊祭を「栃木の

塔」にて斎行しており、この度栃木県神社庁・教化委員会・青年神職むすび会の懸案でございました「戦没者慰霊祭」を斎行する事となりました。



所在地 沖縄県糸満市字摩文仁
 建立年月日 昭和四十一年十一月九日
 敷地面積 一、九五〇㎡
 合祀柱数 三一、四九五柱
 (沖縄戦戦没者 六七六柱・南方諸地域戦没者 三〇、八一九柱)
 設置管理者(二財)栃木県遺族連合会

「栃木の塔」で慰霊祭

県神社庁 沖縄県人会も参加

県神社庁の神職二十人が二月七日、沖縄県糸満市摩文仁の丘の平和祈念公園内にある「栃木の塔」で、「沖縄県本土復帰五十年戦没者慰霊祭」を執り行った。新型コロナウイルス禍で延期を余儀なくされ、大東亜戦争の終戦七十五年の意義も込め、本県南方戦死者の英霊を慰めた。

戦没者に黙祷後、お祓いを行い、祭詞や英霊に感謝する祭文を読み上げた。慰霊の舞に続き、参加者全員で「海ゆかば」を奉唱し、玉串を捧げた。

一行の団長を務める栃木県護国神社(宇都宮市)の稲寿久宮司

(六十六)は「本県の尊い英霊に感謝し、世界の平和と日本の安泰を祈った。慰霊することができ本当にほっとしている」と胸を撫で下ろした。

式典には、本県出身者でつくる栃木県人会「栃の葉会」会長の菊池志乃さん(五十八)と副会長の高久健治さん(七十)も参加した。菊池さんは「沖縄に住む私たちも戦争で亡くなられた方々の存在を心に刻み、栃木との架け橋になりたい」と話した。

※令和五年二月八日下野新聞掲載
 記事より参照



「沖繩本土復帰五十年」戦没者慰霊祭 式次第

- 一、日時 令和五年二月七日（火）午前十一時執行
- 二、場所 沖縄県糸満市摩文仁の丘「栃木の塔」
- 三、次第

当日、「栃木の塔」前に祭場を鋪設し祭具を弁備す
時刻、斎主以下祭員並びに参列員参進 祭場所定の座に著く
是より先手水の儀あり
先ず、戦没者に対し黙祷を捧げる

- 次に、国歌斉唱
- 次に、修 祓
- 次に、斎主一拝
- 次に、饌を供す
- 次に、祭詞奏上
- 次に、祭文奏上
- 次に、慰霊の舞
- 次に、国の鎮め
- 次に、海ゆかば
- 次に、玉串奉奠

予め奉奠開瓶にて之に代ふ

戦没者慰霊祭実行委員会相談役 黒川正邦 殿

テープにより奏楽

奉唱

一、斎主以下祭員

二、戦没者慰霊祭実行委員会相談役 黒川正邦 殿

三、栃木県神社庁 理事 影山幹男 殿

四、神道政治連盟栃木県本部部長 柳田耕太 殿

五、地元県人会「栃の葉会」会長 菊池志乃 殿

六、その他

閉瓶にて之に代ふ

御神酒拝戴にて之に代ふ

先ず斎主以下祭員 次に参列員

奉仕神職

斎主 副庁長・栃木縣護國神社宮司

副斎主 祓主、陪膳 教化委員長・日光二荒山神社禰宜

祭員（一）大麻所役 青年神職むすび会長・白鷺神社禰宜

祭員（二）祝詞後取 全 会員・日光二荒山神社禰宜

祭員（三）玉串後取 全 会員・宇都宮二荒山神社禰宜

典儀 教化委員会役員・八雲神社宮司

舞人 青年神職むすび会員・大宮神社宮司

楽人 笙 全 会員・乃木神社権禰宜

楽人 箏 教化委員会役員・愛宕神社宮司

稲久 香取 正義 上野 敬則 三田 真隆 篠田 元暉 小堀 真洋 黒本 裕子 岡村 洋佑 滝口 貴史

川正邦 殿 山幹男 殿 田耕太 殿 池志乃 殿



式典参列者

戦没者慰霊祭実行委員会相談役

前栃木県神社庁長

雄琴神社 宮司 黒川正邦

戦没者慰霊祭実行委員

栃木県神社庁副庁長

栃木県護國神社 宮司 稲 寿久

栃木県神社庁理事

神道政治連盟栃木県本部 本部長

大前神社 宮司 柳田耕太

同 理事

岩崎神社 宮司 田邊一丸

同 理事

星宮神社 宮司 小林 靖

同 理事

宇都宮神社 宮司 影山幹男

上都賀支部副支部長

高麗神社 宮司 狐塚泰久

栃木県神社庁宗教学講師

栃木県護國神社 権禰宜 菅 浩二

戦没者慰霊祭実行委員

栃木県神社庁教化委員長

日光二荒山神社 禰宜 香取正義

栃木県神社庁教化委員会総務部門長

八雲神社 宮司 小堀真洋

同 教化育成部門長

愛宕神社 宮司 滝口貴史

戦没者慰霊祭実行委員

栃木県青年神職むすび会 会長

白鷺神社 禰宜 上野敬則

同 事業親睦委員長

大宮神社 宮司 黒本裕子

同 会計

乃木神社 権禰宜 岡村洋佑

同 会員

日光二荒山神社 権禰宜 三田真隆

同 会員

宇都宮二荒山神社 権禰宜 篠田元暉

栃木県神社庁 参事 堀口邦夫

同 主事 篠田 薫

同 録事 板垣喜充



沖縄に眠る全ての御霊へ 捧げる「みたま慰めの舞」

大宮神社 宮司

黒本 裕子

日本の最南端に位置する沖縄県は、現在では県外からの観光客や移住者も増加している国内屈指のリゾート地となっておりますが、先の大戦に於いては、本土防衛の御楯として軍民あわせて二十万人余りの尊い生命が散華されました。また、終戦より二十七年の永きに渡り米国の統治下に堪え、本年は沖縄県民の悲願であった祖国復帰より五十年の節目の年を迎えました。

栃木県神社庁では、沖縄本土復帰五十年の英霊顕彰事業として、沖縄県糸満市摩文仁の丘にある「栃木の塔」にて、国の礎となった戦没者へ誠の心を捧げるべく、沖縄慰霊祭実行委員会を立ち上げ、英霊の御霊を慰めるため、令和五年二月六日、沖縄の地へと向かいました。

摩文仁の丘にある平和祈念公園は、沖縄本島の最南部に位置し、

わが国の歴史上唯一の地上戦が繰り広げられた沖縄戦最後の激戦地です。昭和四十年十月一日、当時の琉球政府により沖縄戦跡政府立公園に指定されました。園内は、御霊の鎮魂と祈りの「霊域ゾーン」、安らぎと散策の「園路広場ゾーン」、戦没者の追悼と平和を祈念する「平和ゾーン」、健康運動と自然観察の「レクリエーションゾーン」の四つに区分されています。特に、霊域ゾーンは、公園東南部一帯の丘陵地にあり、沖縄戦で最後の激戦地となった場所でもあります。約十八万余柱の遺骨を納めた国立戦没者墓苑や三十二府県の慰霊塔が参道沿いに建立されており、我が県の「栃木の塔」は、昭和四十一年に沖縄戦並びに南方緒戦に於いて散華された県内出身の戦没者をお祀りするため建立されました。

慰霊祭は、黒川正邦戦没者慰霊祭実行委員会相談役をはじめ、沖縄県人会「栃の葉会」菊池会長、高久副会長のご参列を賜り、栃木県神社庁副庁長 栃木縣護國神社 稲宮司斎主のもと、教化委員会香

取委員長、青年神職むすび会上野会長を始め九名によりご奉仕いたしました。御霊のために、栃木県より米・酒・水を持参し御神前にお供えし、祭詞奏上の後、祭文が奏上され、神楽舞「みたま慰めの舞」を奉奏させていただきました。



御歌「やすらかにねむれとぞおもふ 君のため いのちさゝげし ますらをのとも」

みたま慰めの舞は、昭和十二年に香淳皇后が戦没者に賜った御歌に、昭和二十六年時の宮内庁楽長多忠朝氏が作曲振付けをした神楽舞です。靖國神社と全国の護國神社、御霊を慰める神事でのみ舞う事が

出来る特別な舞です。御国のために尊い生命を捧げられた英霊を慰めるために作られたこの舞は、櫛に紅白の布と鈴をつけた採り物を右手に持ち、左手の掌に御霊を大切に包みするように抱き、両手を上へ中へ下へと差し出し、全ての場所から御霊をお救いするよう、舞を通して祈りを捧げます。節目の年を迎えた沖縄の地に於いて、御歌の「やすらかにねむれとぞおもふ」と繰り返し思い、「いのちさゝげしますらをのとも」の思いを舞を通して切に感じる事ができた慰霊祭でした。

「みたま慰めの舞」が、尊い命を捧げられた本県出身の戦没者を始め、この地に眠る全ての御霊をお慰めする一助になれば幸いです。



沖縄慰霊祭紀行

八雲神社 宮司

小堀 真洋

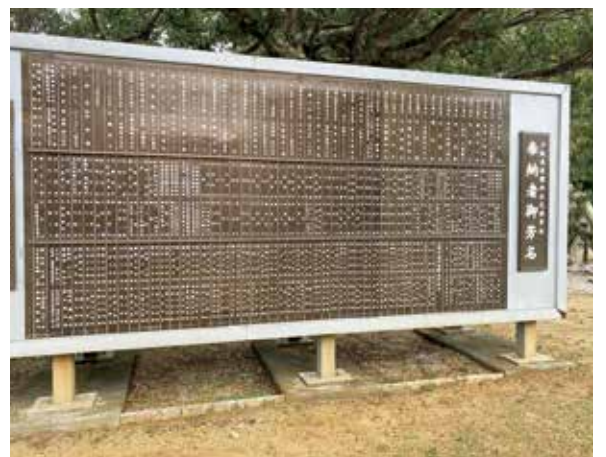
令和五年二月七日、栃木県神社庁沖縄本土復帰五十年戦没者慰霊祭が斎行された。本慰霊祭はコロナ禍で実施が延期された事業のひとつであった。栃木県神社庁はもとより、神道政治連盟栃木県本部、栃木県青年神職むすび会の志を一つにして、この事業が開催に至ったことは関係者の沖縄慰霊への誠心の顕れであろう。

二月七日宿泊地を出て、糸満市の平和祈念公園に向かう。十一時の慰霊祭に向け祭段とテントの設置を急ぐ。「栃木の塔（糸満市摩文仁平和祈念公園）」には、爽やかな青空が広がっていた。栃木県神社庁役員・理事・教化委員会・青年神職むすび会の関係者約二十名と沖縄県在住栃木県人会の菊池志乃会長、高久健治副会長が参列した。栃木県護国神社宮司稲斎主の下、黒川正邦相談役の祭文奏上、黒本裕子宮司による慰霊の舞の奉奏等、恙無く御奉仕申し上げた。



私は先の大戦で失われた二十万人ともいわれる尊い命、そして、消失した豊かな文化に思いを馳せ、本慰霊祭に参加させていただいた。青く広がる空の下、ガジュマルをはじめとする穏やかで豊かな自然をたたえる沖縄の地は、七十八年前苛烈を極めた地上戦の場となった。癒えることのない深い傷を思うとき胸塞がる気持ちに包まれる。戦没者が送るはずであったそれぞれの未来に思いをいたし、その犠牲の上に築かれた私たちの穏やかで豊かな今の暮らしがあることに感謝したい。

慰霊祭後は、「沖縄県職員慰霊塔」、「島田勲・荒井退造終焉の地の碑」も参拝した。沖縄県営平和祈念公園は、各県の慰霊塔が敷設される霊域ゾーンだけでも十二ヘクタールと広大である。その中にあって、「沖縄県職員慰霊塔」と「栃木の塔」は隣設されている。荒井退造の功労の偉大さゆえに、間近に敷設されたのであろうか。荒井退造は現在の宇都宮市清原の出身。戦時中に福井県官房長から沖縄県警察部長に就任された。沖縄県民の県外疎開が決定されてからは、警察部長として先頭に立ち県民の疎開を促進した。島田勲が沖縄県知事に着任すると、県民の県外・北部疎開や軍との交渉などに当たり、島田と共に県民の避難・保護に尽力。合わせて約二十万人の命を救ったとされる。沖縄戦終末期の六月三日、島田と摩文仁の軍医部隊を出たのを最後に消息不明となり、現在もその遺体は未発見である。二〇〇七年、荒井の遺品と見られる碁石と万年筆が県庁警察部壕内で発見された。



栃木県神社庁は令和五年二月六日（八日の三日間）にわたり沖縄に訪問団を結成。この研修では、沖縄県護国神社、波上宮、ひめゆりの塔、斎場御嶽、首里城、沖縄県立博物館などを訪問した。また、沖縄県の信仰を研究されている國學院大学・菅浩二教授も同行された。訪問先では、沖縄独特の信

仰（ニライカナイ）やその風習に触れ、また先の大戦において負った、沖縄の傷みや、戦争の傷跡を伝える「今」に触れることが出来た。ここにその一部を記録する。

二月六日午前、茨城空港から沖縄を目指す。到着後、まずは沖縄県護國神社、そして波上宮へ正式参拝に向かう。

沖縄県護國神社では加治順人宮司よりお話をいただいた。こちらのお社には、約十八万柱の英霊が祀られており、その中には民間人の戦没者（靖國神社に祀られない御霊）もお祀りされているという事、全国より沖縄戦に従軍した英霊達は、靖國神社・各県護國神社、そしてこの沖縄県護國神社にもお祀りされている、という事である。「特別な護國神社」でもある沖縄県護國神社は、戦禍により招魂社時代のお宮は焼失し、沖縄占領下の昭和四十年に現在の社殿が竣工した。今も参道のすぐ脇にはその時の寄付者芳名簿が維持されている。そこには、その当時沖縄で使われていた通貨である「弗（\$）」が表示されていた。特に印象的で

特筆したいのが「沖縄県内の小学校名も記録されている」という点である。復興当時の沖縄県民皆が願いを込めて奉賛活動を展開し、各地の小学校で集められた奉賛金が募財として納められた。この芳名簿は当時の沖縄県民皆に護國神社・英霊尊崇の気持ちが篤くあったことの証左であろう。この芳名簿はとても大切に、私たちが勇気づけてくれる記録であるとも感じた。

波上宮では、渡慶次警宮司から昭和天皇、上皇陛下、今上陛下の「沖縄訪問への思い」や、訪問当時の様子、更には「ニライカナイ信仰」のお話を伺った。明治政府による統治前の沖縄には、海の遙か向こうや海底にある自然の恵みや幸せをもたらす根源「ニライカナイ」を拝する信仰があった。現在は、神道と融合しながら沖縄の歴史や文化の根源となっている。その霊応の地、祈りの聖地の一つが本殿の後



ろ側に広がる海から切り立つ崖端にあり、ここを聖地「拝所」として日々の祈りを捧げたことが、波上宮発祥につながった。沖縄各地の聖地、御嶽（うたき）を理解する上でも大切な神社であると感じた。波上宮は今回の宿泊地から徒歩十五分程の場所でもあったので、翌日ひとりで参拝に訪れてみた。まだ薄暗い朝七時、既に神職による清掃奉仕や参拝者の姿があり、明るく清々しい雰囲気を感じられた。拝殿では神拝が行われており、境内の神職に話を伺うと、二月七日は「北方領土の日」にあたり、近隣の青年神職が祭典を行っているとのこと。沖縄県の青年神職の取り

組みを垣間見ることが出来た。

二月七日は慰霊祭の日である。前述の慰霊祭の後、ひめゆりの塔を訪問した。十三才から十九才の乙女が看護師として従軍し、非業の死を遂げた洞窟にある慰霊塔である。現在はその塔のすぐ後ろに「ひめゆり平和祈念資料館」が建てられている。この施設の玄関は彼女らが学び舎とした「沖縄県立第一高等女学校」の門や玄関が模され、多くの民間人が犠牲となった戦争の悲惨な状況を知ることができた。

その後の訪問先、南城市知念にある斎場御嶽は琉球王国最高の聖地とされる場所。「イビ」と言われる神域をもつ小高い丘の総称である。丘のすぐ下の海岸から見える神の島「久高島」と共に、琉球王国としての国家的な祭事の場合、神の領域としての「禁足地」が点在し、今でも祈りを捧げられる方が多くいらつしやるという。海から続くなだらかな丘に登ると、入口に管理施設があり、御嶽についての説明や心構えのお話しを聞いてから、御嶽となる森に入る。森

はガジュマルに覆われ、高さ十メートル位の岩が切り立ったようなものが生い繁りその異空間のような雰囲気息を呑む。岩と思っていたものは風化した珊瑚礁であり、沖縄は海底が隆起して出来た島であることを思い出させる。所々に点在する拝所「御嶽」を見学し、最重要となる御嶽「三庫理」に至った。禁足地があり、その先は神の領域とされる拝所である。ガイドの方が、「多くの観光客が写真を撮るのみにて、拝礼をせずに見学すること」に對して、「手を合わせてからお写真を撮って下さい」と話されていたことに共感を覚えた。

夜には慰霊祭に参列された沖縄県在住栃木県人会の菊池志乃会長、高久健治副会長が同席して、直会となった。菊池会長は県内でラジオアナウンサーをされていて、興味深い沖縄の情報をお話し下さった。高久副会長とは十年前に訪問した際にお世話になったこともあり、栃木県の話にも話題が及び、楽しく懇親が行われた。

二月八日に訪問した沖縄県立博物館、首里城では沖縄の歴史や文化に触れることが出来た。博物館の展示では、村の形成が山側の御嶽を中心にして、海側へ広がっていった様子が印象的であった。また、戦争の惨禍も多く展示されている。那覇市内にある施設なので来訪に便利で、沖縄を知る上で大



変有意義な施設だと感じた。

首里城は主要建物が火災で焼失したが、現在、復興のための工事が進められている。そのため、屋根の棟飾りとして鎮座していた「龍頭棟飾」も間近に見る事ができ、その大きさに驚いた。焼失した主要建物以外の場所は見学可能であり、ガイドの方の説明を聞きながら興味深く見学できた。令和八年の竣工が楽しみである。

見学の際、同行した菅先生より首里城は戦前「縣社沖縄神社」に指定されていたという興味深いお話を伺った。当時は神社の維持に公金が充てられて、維持管理保全が行われていたそうである。焼失した正殿は沖縄神社の社殿としての役割を成していたが、現在そのことが語られることが無い事を残念に思う、ということであった。実際に戦前沖縄神社の社務所として使われていた「世誇殿」の説明パネルの写真は大きく損

壊されたまま補修されず放置されていることに驚いた。



結びに、目的とした慰霊祭が恙なく斎行出来たこと、沖縄の歴史や信仰・文化に触れ、有意義な研修の旅を過ごすことが出来たことを、関係の皆さまに感謝申し上げます。

令和四年度
神社本庁総裁臨時表彰受彰者
並びに金品奉納受彰者

奥宮社務所寄進

日光二荒山神社 氏子会顧問

高瀬 孝三

(宮司 中麿 輝美)



令和四年度

栃木県神社庁長臨時表彰受彰者

北那須 黒磯神社総代会長 安宅 勝

(宮司 月江 寛智)

北那須 温泉神社総代会長 高久 政雄

(宮司 月江 寛智)

下都賀 雄琴神社責任役員 白石 博英

(宮司 黒川 正邦)

下都賀 小林神社総代長 大垣 充

(宮司 刀川 清満)

足利 稲荷神社総代 世取山 公夫

(宮司 櫻木 理史)

足利 稲荷神社総代 中村 功

(宮司 櫻木 理史)

足利 稲荷神社総代 西村 正一

(宮司 櫻木 理史)

金品奉納にて受彰された方々

初詣看板セット奉納

今宮神社 (鹿沼市)

名塚 齊

(宮司 山田 和之)



多額の金品寄進

大宮神社 (栃木市)

中野 充

(宮司 黒本 裕子)



賽銭箱一式奉納

大橋八幡宮（栃木市）
 (株)ワタナベ土木 渡辺 秀夫
 (宮司 小林 一成)



アルミ製灯籠一基寄進

春日神社（栃木市）
 富山 和一郎
 米子
 (宮司 板垣 彰)

アルミ製灯籠一基寄進

春日神社（栃木市）
 富山 綾子
 光祥
 長谷部 幸子
 (宮司 板垣 彰)

注連縄三張り寄進

春日神社（栃木市）
 (有)モミジヤ 代表取締役 白井 正人
 (宮司 板垣 彰)

鳥居注連縄奉納

間々田八幡宮（小山市）
 氏子総代一同
 (宮司 栗原 城治)



厳島神社修繕・力石移設整備事業

間々田八幡宮（小山市）
 (株)島野工務店 代表取締役 島野 勝行
 (宮司 栗原 城治)



本殿覆屋幕奉納

間々田八幡宮（小山市）
 (株)ふくや装飾 代表取締役 塩森 康嗣
 (宮司 栗原 城治)



厳島神社鳥居塗装浄財寄進

間々田八幡宮（小山市）

糸井 信司

（宮司 栗原 城治）

鈴緒奉納

星宮神社（野木町）

新井 啓司

（宮司 栗原 城治）



拝殿階段奉納

星宮神社（野木町）

生沼建築 生沼 洋一

（宮司 栗原 城治）



灯笼一对奉納

星宮神社（野木町）

新井 啓司

（宮司 栗原 城治）

須田 成治



うなぎを食べない村記念碑奉納

星宮神社（野木町）

（宮司 栗原 城治）
総氏子



土地奉納

鷲宮神社（栃木市）

（宮司 菱沼 拓巳）
根本 勤



八雲昇龍像奉納

八雲神社（足利市）

（宮司 糸井 邦夫）
櫻木 理史



御札所前石畳寄進整備工事

八幡宮（宇都宮市）

（宮司 石の北正樹）
栗原 正志
小島 教敬



神明灯籠一对寄進

八幡宮（宇都宮市）

（宮司 添野 章）
小島 教敬



刺繍絵寄進

八幡宮（宇都宮市）

（宮司 上野 美知子）
小島 教敬



鳥居改装工事浄財寄進

星宮神社（宇都宮市）

大田 和豊

外総代氏子一同

（宮司 阿久津 喜大）



鳥居改装工事浄財寄進

両宮神社（宇都宮市）

大塚 善美

外総代氏子一同

（宮司 阿久津 喜大）



名木・古木樹勢回復事業

戸隠神社（那珂川町）

古谷 栄作

（宮司 岡田 和麿）



作品書 「命」寄進

塩竈神社（矢板市）

柿沼 正

（宮司 伊藤 史展）



灯籠一对奉納

大田原神社（大田原市）

鎌田 美樹雄

（宮司 宇賀神 直人）



しめ縄奉納

愛宕神社（那須烏山市）

滝口 一

（宮司 滝口 貴史）

教えて！神主さん お宮のQ&A



写真提供：神宮司庁



写真提供：神宮司庁



神宮大麻全国頒布百五十周年記念
神宮大麻をおまつりしましょう

Q お神札（ふだ）をお祀りしたいのですが、どちらで受けたら良いですか？

A まず、お神札には神棚の中に納めてお祀りする「大麻」とご祈禱等で神社から頂いた「祈願札」の二種類があります。

「大麻」には、我々日本人の総氏神様と言われる、伊勢の神宮の大麻『神宮大麻』と、各地域の氏神さまの「大麻」があります。加えてご自身にご縁がある神社や崇敬される神社の「大麻」を神棚にお祀りされると良いでしょう。

『神宮大麻』や各神社の「大麻」は、お住まいの近くの神社でお受けすることができます。



Q 神棚が無いのですが、お神札をお祀りしても良いですか？

A はい、もちろん大丈夫です。リビングなど家族が団欒するお参りしやすい部屋、本棚やタンスの上に白い紙を敷いてお祀りされると良いでしょう。

神社は神様のお住まい。神棚は各家庭で祀る神社と言えます。

ご自身やご家族の健康を願い、日々の感謝を神様に伝える為にご家庭にお神札をお祀りされることをお勧め致します。

尚、神棚は神具店やホームセンターでお求めいただけます。「大麻」が神棚の中に入る大きさのものをを選び下さい。



Q 身内に不幸があったのですが、お神札を受けてはいけませんか？

A 家族が亡くなったとき、身内の者は喪に服しますが、このことを「服忌（ぶつぎ）」といいます。

「忌」とは故人の祀りに専念する期間、「服」とは故人への哀悼の気持ちを表す期間のことをいいます。

「服忌」については、地域に慣例がある場合、その慣例に従うのが適切です。特に慣例がない場合には、五十日祭までが「忌」の期間、一年祭（一周忌）までを「服」の期間とするのが一般的でしょう。

ですから「忌」の期間である五十日を過ぎれば、原則として神事を再開しても差し支えないと考えられます。

「忌」の期間中は、神社への参拝を遠慮しますが、やむを得ない場合には、お祓いを受けるのが良いでしょう。





写真提供：神宮司庁

Q 色々な神社でお守を受けると、神様が喧嘩すると聞いたのですが？

A 旅先での神社参拝などで、お守やお神札をお受けになることは、神様とのご縁を結ぶ一つの良い形です。我が国には八百万と呼ばれる沢山の神様がいらっしやいます。多くの神様とのご縁を結ばれ、その恵みを頂きたいと願うことは、神様もお喜びになることと思います。御神縁を大切に、頂いたお守やお神札を大切にされれば、神様が喧嘩することなど無いでしょう。



Q 厄年のお祓いはいつ受けたら良いですか？

A 元日から立春前の節分までの間に神社で厄祓いをお受けになると良いでしょう。

但し、年によっては立春が二月四日でないことがございますので、暦やカレンダーで確認すると良いでしょう。一年が始まってから、あまり時をおかずにご依頼されると良いと思います。



◆疑問、質問は地元の神社の神主さんにお気軽にお尋ね下さい。

令和6年 厄年早見表 (年齢は数え年)

男 性

前厄	本厄	後厄
 24 歳 平成 13 年生 (2001)	 25 歳 平成 12 年生 (2000)	 26 歳 平成 11 年生 (1999)
 41 歳 昭和 59 年生 (1984)	 42 歳 昭和 58 年生 (1983)	 43 歳 昭和 57 年生 (1982)
 60 歳 昭和 40 年生 (1965)	 61 歳 昭和 39 年生 (1964)	 62 歳 昭和 38 年生 (1963)

女 性

前厄	本厄	後厄
 18 歳 平成 19 年生 (2007)	 19 歳 平成 18 年生 (2006)	 20 歳 平成 17 年生 (2005)
 32 歳 平成 5 年生 (1993)	 33 歳 平成 4 年生 (1992)	 34 歳 平成 3 年生 (1991)
 36 歳 昭和 64 年 / 平成元年生 (1989)	 37 歳 昭和 63 年生 (1988)	 38 歳 昭和 62 年生 (1987)
 60 歳 昭和 40 年生 (1965)	 61 歳 昭和 39 年生 (1964)	 62 歳 昭和 38 年生 (1963)

令和6年 戌の日早見表

1 月	11 日(木)赤口・23 日(火)赤口
2 月	4 日(日)赤口・16 日(金)先勝・28 日(水)先勝
3 月	11 日(月)先負・23 日(土)先負
4 月	4 日(木)先負・16 日(火)仏滅・28 日(日)仏滅
5 月	10 日(金)赤口・22 日(水)赤口
6 月	3 日(月)赤口・15 日(土)友引・27 日(木)友引
7 月	9 日(火)先負・21 日(日)先負
8 月	2 日(金)先負・14 日(水)大安・26 日(月)大安
9 月	7 日(土)赤口・19 日(木)赤口
10 月	1 日(火)赤口・13 日(日)先勝・25 日(金)先勝
11 月	6 日(水)先負・18 日(月)先負・30 日(土)先負
12 月	12 日(木)仏滅・24 日(火)仏滅

戌(犬)は安産と言われていて、妊娠五ヶ月の戌の日に腹帯をすると安産で丈夫な子が産まれると言われていたのよ。
お参りは、お近くの氏神様へ



式年遷宮

「技と心を伝える二十年に一度の大祭典」

伊勢神社

宮司 提箸 照之



御正殿 式年遷宮の時期にだけ見られる並び立つ正殿
ごしょうでん

『神社の遷宮と常若』

遷宮とは、宮を遷るという意味ですが、遷るの主語は神様・御神体です。本殿の修繕、建て直すときに一度仮宮にお遷り戴くことが直接的な意味ですが、広く神社の建物の改修や建替のことを指します。

遷宮という言葉がメディアでも広く飛び交った時期がありました。平成二十五年は、伊勢の神宮と出雲大社の遷宮が重なり、大きな話題となりました。伊勢の神宮は二十年に一度の式年遷宮を、出雲大社は六十年振りに遷宮を行いました。とても縁起の良い年ということで記憶に残っているのではないのでしょうか。

式年遷宮とは、決まった年ごとに遷宮を行うという意味です。これらは、「常若」という神道の考え方がもとになっています。字面では、いつも若々しく、という意味ですが根底には「常に若々しく美しさを保っていることで永くあり続けられる」という意味が含まれています。古き伝統を伝えながら御社殿などが常に瑞々しい状態を保ち、「古くて新しい」御社殿であるということは、未来永劫に人間の精神や技術を守り続けていくための知恵なのです。まさに式年遷宮は、生命のよみがえり、「常若の精神」を象徴する大祭典です。

変化のスピードが早く、慌ただしい日常を生きる現代人は、「変わらないもの」に接する機会がほとんどありません。神社には、まわりが変化しても自然や生命が循環するように、過去のものが現在に生き、未来にわたり常に若く瑞々しくあり続けています。

一三〇〇年以上に亘って、伝統や技術が守り伝えられてきた式年遷宮は、「変わらないために、変える」ということに触れる、数少ない好機である。

『二十年に一度の式年遷宮』

伊勢の神宮には、内宮にも外宮にもそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、式年遷宮は二十年に一度、宮処を改め、古くからの儀式のままに御社殿や御装束神宝のすべてを新しくして、天照大御神に新殿へお遷りいただく神宮最大のお祭りです。

鎌倉時代の記録「遷宮例文」に「皇家第一の重事、神宮無双の大宮なり」と記されている通り、式年遷宮は古くから国を挙げての重要な儀式として行われ、天皇陛下の篤い思召のもと、国家と国民の平安がお祈りされてきました。



皇大神宮（内宮）御正殿

式年遷宮は、第四十代天武天皇の御発意により、続く第四十一代持統天皇の四年（六九〇）に内宮、同六年に外宮で第一回が行われました。以来、室町時代後期に一時的に中断されましたが、一三〇〇年にわたり継続され、平成二十五年（二〇一三）で六十二回を数えました。

世界中にはパルテノン神殿やピラミッドに代表されるように、石



外宮 新しい神殿の棟上げにあたる「上棟祭」

造による建築物が数多く見られますが、神宮は二十年に一度、御社殿をまったく新しく造り替える式年遷宮によって永遠性を求めました。その結果、石造りで耐久性があるはずの建物は時とともに遺跡になり風化する一方、木でできた神宮は古い形を保ちながらも常に若々しい姿を見せています。

なぜ二十年に一度行うのかという理由には、これまで多くの説が出されています。神宮の御社殿は檜の素木造りで屋根も萱であるため、常に清々しい姿を保つための耐久性限度。宮大工や美術工芸家を始め多くの伝統技術を伝承することが可能な最適な年限。遷宮を行なう費用に充てられる稲の貯蔵年限を二十年とする法令によるという説などがあります。

神々には常に美しく瑞々しい御殿にお鎮まりいただきたいという古代の人々の願いが式年遷宮に込められ、その精神は現代も変わらず受け継がれています。

神宮の御社殿は、弥生時代の穀倉に起源を持つ「唯一神明造」という建築様式です。式年遷宮が始まった当時、現存する奈良県の大寺院などのように非常に高い建築様式があったにも関わらず、あえて建て

替えし続けることによりこの様式を残そうとしました。

当時は、仏教が日本に伝来してから一〇〇年以上経ち、中国大陆から最新の文化が次々に導入された時代です。日本古来の文化が失われるのではないかという危機感があったのかもしれませんが。そうした中で、我が国の文化の根源である神宮は、永遠にわたって変わってはならない存在として、日本の伝統に基づいた建築様式が用いられ、天武天皇は式年遷宮を発案されたのではないかと考えられます。

神宮は現在も昔ながらに祭祀を行い、年間八〇〇万人以上の参拝者をお迎えしています。その点で神宮は決して過去の遺跡や遺産ではないのです。

いにしえの精神と技術を守りながら現在に生きており、またそれは未来にわたって生き続ける。式年遷宮を行うことで、神宮はもつとも新しく生き続けるのです。それこそが、伊勢の神宮の持つ独特のスタイルといえましょう。



御正殿の造営

『御社殿の造営と二百年後のために育てられる森』

式年遷宮では、内宮と外宮の両正宮のほか、十四の別宮、さらに東宝殿、瑞垣、鳥居など一七〇を超える建物が建て替えられます。このほか修繕を行う建物が八十ヶ所ほどあります。造営に関わる準備には、御用材の檜・萱の調達、金銅飾金物を作ることがあります。

遷宮で使用される御用材を伐り出す山を御杣山といいます。遷宮初期の頃は、神宮からほど近い山が御杣山でしたが、昔は植林の知識や技術が無かったため、御用材となるべき木々が枯渇し、時代が降るにつれて御杣山も変遷をたどります。戦国時代の遷宮中断を経て、江戸



御用材を伝統技法で伐り出す御杣始祭

時代には尾張藩の御用材であった木曾が御杣山となり、明治以降もそれが踏襲されて今日に至っています。

山は命の源である水、また日本人にとって最も大切な資源である木材を供給してくれます。古くから日本人は山を大切にし、平地部であっても山の神様をお祀りするなど、畏敬の念を持ってきました。



裏木曾御用材伐採式

遷宮で使用する御用材を伐り出すに際しても、山口祭や御杣始祭^{みそまはじめさい}などの祭祀を繰り返し、感謝と祈りが捧げられます。

神宮の神域は約五五〇〇ヘクタールあり、そのほとんどが山林で、神宮林と呼ばれています。その南面部分に将来の遷宮用材となる檜を育て、二百年後には大部分の御用材を自給自足しようとする森林経営計画が大正十二年から実施されており、百年を経過した今日もなお継続しております。檜が御用材として用いられるまでには凡そ二百年の年月が必要です。神宮では二百年後の式年遷宮のために、すでに準備

が行われているのです。



立柱祭（外宮）
りっちゅうさい



葛祭・金物を飾り奉るお祭り
いらかさい



『千年の時を超えて受け継がれる祭り』

式年遷宮は、天皇陛下の大御心を戴いて行われます。

遷宮の準備は遷御の八年前から進められる事になっており、第六十二回式年遷宮では、平成十六年一月、神宮大宮司が陛下に拝謁、同年四月に御聴許を賜りました。そのことを受けて、神宮では平成十七年一月一日に神宮式年造営庁を発足させ、本格的なご準備に取りかかりました。

遷宮に関する諸祭や行事は三十ほどあり、平成十七年五月、式年遷宮最初の祭儀である山口祭が古式にのっとり執り行われ、遷宮は実質的に開始を告げたのでした。

遷宮の諸祭は御用材関係、造営関係、遷御関係と大きく三種類に分類されます。これらの諸祭の多くは古く「延喜式」に記載されており、千年の時を超えて今日に受け継がれてきたものです。諸祭の中でも特に重要な祭儀は、日時を天皇陛下にお決め戴きます。このことを日時御治定といします。

第六十二回式年遷宮より令和五年で十年。世界を取り巻く環境が大きく様変わりし、コロナ禍など様々な長い困難期が続いています。

私たち神社神道人が、「変わらないために、変える」という日本人の大事な「心」を、これから続く未来の式年遷宮を始め、各神社の「常若」に向け、啓発活動を活発に推進して参りたい。

写真提供

神宮司庁広報室

神宮司庁文化部

参考文献

第六十二回神宮式年遷宮へ向けて 神宮

神宮司庁・神宮式年造営庁 平成十八年四月発行

図解 伊勢神宮

著者 神宮司庁 発行所 小学館 令和二年五月一日発行



昭和四年度 御遷宮絵巻 第58回神宮式年遷宮を記録した絵巻。クライマックスである遷御の場面



内宮の「遷御」

栃木県の特産物紹介

〜第二回 とちぎの「日本酒」〜

神社・神職の視点から、地元栃木県の特産物にスポットを当ててご紹介するこちらのコーナー。第二回はとちぎの日本酒をご紹介します。

神様とお酒

古来より、稲は神様から授かった神聖なものであり、その稲から取れるお米を発酵させて造るお酒（日本酒）は、神様へ捧げる様々なお供え物（神饌）の中でも、お米に続いて特別なものとされてきました。



日本酒とは

お酒は作り方によって大きく三種類に分類されます。

- 一、醸造酒・・・様々な原料を、酵母により発酵させて造られた酒。
- 一、蒸留酒・・・醸造酒を蒸留し、アルコール度数を高めたもの。
- 一、混成酒・・・醸造酒や蒸留酒に、薬味・香味を加えて造られるもの。

日本酒は、米・米麴・水などによって造られる醸造酒です。

日本酒の分類

日本酒は、左記のようにわけることができます。

- 一、普通酒・・・米・米麴・水・醸造アルコールや糖類を添加して造られる。
精米歩合に規定はなく、醸造アルコールは一〇％以上。
- 一、純米酒・・・米・米麴・水だけで造られた清酒で、香味・色沢しきたくが良好なもの。

一、純米吟醸酒・・・精米歩合が六〇％以下の純米酒を指す。

一、純米大吟醸・・・精米歩合が五〇％以下の純米酒を指す。

一、本醸造酒・・・米・米麴・水に醸造アルコールが添加されている日本酒。
醸造アルコールは一〇％以下。

一、吟醸酒・・・精米歩合六〇％以下の本醸造酒を指す。

一、大吟醸酒・・・精米歩合五〇％以下の本醸造酒を指す。

この他に、特別純米酒・特別本醸造酒などがあります。

酒米へのこだわり

日本酒の原料と言えばお米。栃木県には、日本穀物検定協会による食味ランキングにて高い評価を獲得したブランド米が多く生産されていますが、食べておいしい米がおいしいお酒を生むとは限りません。酒造りには、酒造りのために作られた特別なお米、『酒造好適米』が用いられます。このお米は一般の飯米と比べて粒が大きく柔らかく、米の中心にある「心白」と呼ばれる白く濁った部分が多いのが特徴です。酒造好適米としての有名品種は、全国的には、山田錦・五百万石・美山錦など。県内産では夢ささら・とちぎの星・あさひの夢などです。

「精 米」

米を磨き上げることで香り高い酒を造る

米の表層部に含まれているタンパク質や脂肪は、酒の味わいや香味を劣化させてしまったため、まず米を削りそれらを取り除きます。その作業は、精米（米の表面を削る作業）と呼ばれます。米の表面を削って残った部分の比率や精米歩合の調整を行うことにより、その後様々な質の酒を造ることが出来ます。



「名水ある所に銘酒あり」

水の種類で口当たりが微妙に変わる日本酒の不思議

日本酒は、使用する水の種類によっても口あたりに微妙な変化が出てきます。含まれる酵母の生育や働きに関係するミネラルの含有率による影響が大きく、全国に点在する水脈から湧き出る水の質によって、多種多様な酒が造られます。最近では、麹や酵母の生育に欠かせないミネラルが豊富な海洋深層水も、仕込み水として注目されています。



「日本の酒」

杜氏や蔵人のきめ細やかな技術が生み出す奇跡

原料が米と水のみで造られる日本酒は、醸造酒としては世界のアルコールを含む飲料の中でも異例の度数の高さを持っています。それは、熟練の杜氏や蔵人たちの誇るべき叡智の結晶、醸造技術の賜物です。長期間の低温発酵により時間をかけて醸造された日本酒は、海外においても、その香りや味わいが高く評価されています。醸造酒として世界においても例を見ない高いアルコール度数を生むこの仕込みの技術は、紛れもなく世界一であると言えます。



最後に、県内の酒蔵をご紹介いたします。

日本全国うまい酒は多々あれど、県内それぞれの蔵元が仕込んだ日本酒は、味も香りも栃木を代表する自慢の銘酒です。お気に入りを見つけて、今宵は栃木の地酒で乾杯、なんていかがでしょうか。

写真・資料提供 栃木県酒造組合

とちぎの蔵元紹介

●の数字は地図上の蔵元の番号です

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
菊の里	旭興	天鷹	とちあかね	東力士	仙禽	かなびの里	松の寿	忠愛	十一正宗	惣譽	燦爛	桜川	初戎	開華	池錦	柏盛	清開	杉並木	北冠	鳳凰美田	三福	朝日栄	雄東正宗	若駒	若盛	四季桜	澤姫	菊
菊の里酒造(株)	渡邊酒造(株)	天鷹酒造(株)	株白相酒造	株島崎酒造	株せんきん	資小島酒造店	株松井酒造店	株富川酒造店	森戸酒造(株)	惣譽酒造(株)	株外池酒造店	株辻善兵衛商店	吉井酒造(株)	第一酒造(株)	小林醸造(株)	片山酒造(株)	株渡邊佐平商店	飯沼銘醸(株)	北関酒造(株)	小林酒造(株)	三福酒造(株)	株相良酒造	杉田酒造(株)	若駒酒造(株)	西堀酒造(株)	宇都宮酒造(株)	株井上清吉商店	株虎屋本店

栃木県酒造組合長 尾崎 宗範

紅葉の情報が入りはじめると、とちぎの秋は一散に秋が深まります。薄着で肌寒さに気が付く夕ぐれ刻から宵、夜明けはすっぱりと冷えが地上を覆いつくしています。あの暑かった真夏の日々が遙か遠い昔に思えるのです。大きな災害もなく迎えた収穫の「米」が、そろそろ蔵元に到着しはじめるのはその頃、もう暦は十月下旬。米どころ栃木の地にしっかりと根付いた「酒どころ栃木」の蔵元が、誰かれの別なくそわそわ、いそいそとなつて参ります。構内にさす陽ざし、風までもが変わるのです。とちぎの蔵元は寒造りが主流ですが、年内の仕込みが始まります。

とちぎは世界遺産日光の地をはじめ名勝の景観に恵まれた土地柄です。山岳地帯には至るところに温泉が湧出し、昔から今に至るまで人々を和ませ、憩いの場を創ってくれています。また、日光連山、那須火山帯、八溝山系の山々があります。たっぷり水を含む大森林からの清涼な「水」は北関東の水源としてふところの深い存在を示してくれています。酒造りにとって水は命、良質で豊富な水量は本当にありがたいことです。

さくら咲くころから新緑のとちぎはまた絶好の季節です。厳冬に仕込まれた酒が貯蔵タンクの中に静かに熟成の時を過ごします。

外の暑さが最高に達する頃でも石造の蔵や巨木を建材とした大きな古い蔵の中はひんやりとした冷気がただよいます。近年では冷蔵設備の倉庫が整う蔵も急増しています。

年間を通じて蔵に常勤する若い酒造技術者が各蔵に育っています。とちぎの地元の酒造責任者「下野杜氏」が誕生して、より一層酒造技術者の技術情報の交流が活発です。今にしてなお生き続ける日本酒醸造の基本技術が、先輩から後輩へと継承され続けることを願いつつまた、日本の新米で、馥郁たる新酒の仕込みが始まります。

